みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第６１号

発行日
平成27年9月1日

◇ 目　　次 ◇

Ｐ２　「パークボランティア感謝状伝達式」《　受賞者の記念　小文》
Ｐ３　《　受賞者の記念　小文》
Ｐ４　〃
Ｐ５　〃
Ｐ６　〃
Ｐ７　平成 27 年度「環境の日」・宮島海岸の清掃作業・入浜池定点観察①および維持管理作業
Ｐ８　入浜池定点観察①および維持管理作業
Ｐ９　「救急救命講習会」・入浜池定点観察②および維持管理作業
Ｐ１０　嚴島神社前海浜清掃
Ｐ１１　「自然公園クリーンデー清掃活動」投稿　俳句・「みせん」を綴ってみて　編集後記
Ｐ１２　事務局連絡事項

環境省「パークボランティア感謝状」受賞者

感謝状　伝達式にて

（　氏名　前列左から　平田(広) 村上 足立 中道 柳瀬
後列左から　佛崎 末原 岩崎 松尾 小川 野呂田
島・六重部会員は都合により伝達式を欠席されています。）

「宮島地区パークボランティアの会」は、設立から数えて 16 年目をかけぬけようとしています。このたび設立当初から 15 年間在籍された会員 13 人が、環境省からの「パークボランティア感謝状」を手にされた。受賞された会員は会の存在が認められるよう地道に活動を続けてこられた方々です。しかし一方では諸般の事情により志半ばで退会された会員がおられたことも決して忘れてはいけない事実です。今後も、会を発展させるためには、次代を担う会員の皆さんが、できかけた伝統を新しい目で見直していく責務があります。　(文・写真　平田広三郎)

（　関連記事 P2~P6）

『平成 27 年度「パークボランティア感謝状伝達式」』が開催された。

上記感謝状伝達式が平成27年7月4日(土)　廿日市市宮島町宮島市民センターに於いて、環境省主催で行われました。「パークボランティア感謝状」とは、環境省のパークボランティア活動に 15 年間従事された方を対象に環境省から授与されるものです。ご存知のとおり、「瀬戸内海国立公園宮島地区パークボランティアの会」は平成 12 年 6 月 3 日に設立されていますが、今回感謝状を授与された会員は、平成 11 年 7 月のボランティア募集に応募され、同 8 月から研修を受け、平成 12 年 4 月 1 日に登録されたいわば一期生の方達です。15 年の長きに亘って活動を続けてこられたことに敬意を表すため、ここに 13 名の方々の氏名を記すとともに、受賞記念にいただいた「**15 年の思い**」の詰まった小文を掲載します。

受賞者名　足立 清　岩崎 義一　小川 加代　島 千代喜　末原 義秋　中道 勉
野呂田 恵子　平田 広三郎　佛崎 勝弘　松尾 健司　村上 光春　柳瀬 佳史
六重部 篤志　　（　会員番号順　）

式は「救急救命講習会」の後、12：00 から武石自然保護官のあいさつに続き、環境省自然環境局長名の感謝状が各人に一人一人手渡され、最後に受賞者を代表して村上会長がお礼の言葉として、歴代の自然保護官や AR の方々への感謝の気持ちを述べられて 12：30 に終了した。

感謝状　（氏名略）

《　記念　小文　》　（会員番号順）

“パークボランティア活動の思い出”

足立　清

平成 11 年夏、環境省からパークボランティア募集の案内があり応募したのが始まりです。応募者は 70 人以上いましたが、1 年の研修期間を終えて正式に登録された人は 44 人でした。その後 6 回の追加募集で 67 名入会していますから合計すると延べ 110 人の人と知り合いになりました。これは何事にも変えられない、パークボランティア会員の誇りです。

15 年の間、色々と活動した思い出がありますが、一番印象に残っているのは平成 16 年 9 月台風 18 号が宮島に甚大な被害を与えた時です。横山会長が体調不良で退任され、村上会長が就任される間、半年間、私が代行していましたが、大元、包ケ浦の広場一面に折れた枝が散乱し、凄まじい状態でした。急遽パークボランティアで片づけ作業をすることにして、有志を募ったら多数の会員が駆けつけ、取材に来た中国新聞記者が「まだ自分の家の片付けも終わっていないのに、献身的に宮島のために作業するパークボランティア」として大々的に新聞記事にしました。その記事が出た後、何人かの人から声をかけられ、パークボランティアの知名度も上がったように思いました。

宮島への来島者が 400 万人/年を超えましたが、これからも我々の活動が大いに役立ち、美しくて魅力的な宮島の発展に貢献したいものです。

「足と汗で知った宮島」

岩崎　義一

PV 活動 15 年表彰はたいへん光栄に有り難く思います。感謝状を頂く身ではなく逆に長年 PV の会に在籍させてもらったことに私の方が感謝したい気持ちです。

（　以下次ページ　）

入会して目指した事は、「宮島を知るためにくまなく歩くこと」と何か一つ得意分野をつくらねばと選んだのが「町石の調査」でした。会の皆さんにメジャーを持って実地に計測してもらったりして土石流災害も経て「町石冊子」を完成させ、度々中国新聞にも記事に取り上げてもらい成果を得ました。中でも崖下 10m長年失われていた大聖院道・十六丁町石の石仏の引き上げは、大袈裟に言えば私の人生最大の功徳かもしれません。

「町石」を通じて宮島にて多くの知己を得ることができ、会の活動以外でも、ダライラマや横綱朝青龍、作家の立松和平氏などに接する機会を得て貴重な体験を持つことができました。

また宮島一周歩行を含め宮島のあらゆるルートを探索しました。知識偏重でなく実地検分・体験を通じて、宮島の良さをもっと知っていきたいと思います。

継続は力なりですが、マンネリも禁物、そうならない為にも会の運営は新しく入られた方に委ねて、私個人としては細く長く次の 15 年も続けて行こうと考えます。此度はたいへん有難うございました。

『入会のきっかけは！』

小川　加代

入会のきっかけは、15 年前の PV 募集の新聞記事でした。電話で問い合わせると杉本さん（会設立当時の自然保護官）が熱い思いを聞かせてくださいました。以来、宮島には毎月 1 回以上通ってきました。

入会当初と現在を比較してみると、増加したのは、宮島航路の乗客・登山客・給食タイムを待つ鹿・生息していなかった猪、少なくなったのは猿、リニューアルしたのは、弥山頂上展望台・弥山登山道大聖院ルート・水族館・旧宮島町から廿日市市宮島町、思いつくだけでも色々変化しています。

PV の会の主催する観察会なども、伝えよう知ってもらおうといった気負いがなくなり、まずは参加者に楽しんでもらおうという内容で、シニア世代の参加が多くても満足してもらえるものになっていると思います。一方で変わらないのは、砂浜に打ち上げられるゴミです。今後も自然の姿に感動しつつ、保護することの大切さを伝えるお手伝いができればと思っています。

最後になりましたが、良き師、良き仲間に出会え、楽しく活動させていただいていることに感謝します。

「宮島町から参加して！」

島　千代喜

料理すること以外に取り柄のない私が、岡崎さん（当時旧宮島町職員）の薦めで PV の会に入会して、色々な人との出会いがあり、色々なことを学ぶことができました。

PV の会のメンバーは歴史・植物・生物などの専門家みたいな人たちが多かったので、体を動かして汗水流すタイプの私には、観察会に参加した時などには宮島に住んでいながら知らないことだらけで、新しい発見の連続でした。そして　暇を見つけては「宮島の植物誌」を手に、独りで歩き回り名前を憶えたこともありました。

また　「みせん」発刊時、宮島に環境庁の詰所がなかったので、広報部会の足立さんを手伝うため、広島の自然保護官事務所に通ったこともありました。

この 15 年、幹事をしていたので、私にできる仕事があり、続けてこられたような気がします。楽しく参加させてもらいありがとうございました。

《15 年を振り返って》

末原　義秋

私が入会したきっかけは、平成 10 年に初代の杉本自然保護官（前述）が、宮島は自然の豊かさと歴史との関わりが深いので、自然や歴史学習に適しているのと、国立公園の自然保護思想の普及啓発のために、「宮島地区パークボランティアの会」を設立したいとの相談に来られたのがきっかけでした。

以来 15 年間環境整備担当として、会員の皆様には鷹ノ巣高砲台整備、入浜池の環境整備や水路整備、台風で被災した包ヶ浦キャンプ場清掃、白糸川土石流災害被災宅の土砂撤去、　（　以下次ページ　）

紅葉谷公園及び弥山登山道の整備と清掃、厳島神社前海浜清掃、コバンモチ樹木保護網設置、ミヤジマトンボ生息地整備等々の重労働や体力作業を行っていただき感謝の気持ちで一杯です。皆様の協力のお陰があったからこそ 15 年間務めることができたと思っています。

これからも、宮島の豊かな自然と歴史を守るために、引続き活動したいと思っていますので、ご理解とご協力よろしくお願いいたします。

【奉仕活動を続けるには家族の支援が必要である】

中道　勉

人生の大半を宮島の観光事業に携わっていたことから史跡の由緒や歴史などについては島内の長老や社寺仏閣、植物については広大実験所などを訪ね、数多くの資料集めと知識を学ぶことができた。その資料を参照に観光客用の「ちらし」や「冊子」を印刷していた。

やがて定年を迎えたが、何かこれらの知識や体験を生かせる方法はないものかと思慮していた頃、新聞にボランティアの募集があった。

要項には夢見る少年のような文章を記載し応募した。しかし　申し込んだが合格通知がこない。今でもあの緊張感を忘れることはない。

あれから十五年間、山あり谷ありの奉仕活動であったが、幸いにも教養ある仲間達に恵まれ今日に至っている。

なぜこのような感謝状を賜ることができたのだろうか。改めて振り返ってみると、先ず出掛けることに対し家族からの苦情がなかったこと。それどころか活動を続けるための健康維持に気遣ってくれていたことに気付いたのはこの感謝状を受け取った日であった。

いつか帰省する孫達にお小遣いを上げて、お爺ちゃんの長い自慢話を聴いて頂くことを楽しみにしている。

「入会 15 年」

野呂田　恵子

今年は、PV の会、設立 15 周年。そして私も入会 15 年となりました。入会して 10 年目の年は感慨深いものがありましたが、その後の 5 年はあっと言う間の 5 年でした。しかし　その 5 年間の間に大切な仲間だった方々の別れが数件ありました。

なんの取り得もない普通の主婦をしていた私が、どう輪に入ったらいいか困っていたとき、いつも声をかけてくださり引き入れてくださったのが新川さんでした。また PV の会だけでなく広島自然観察会でもお世話になり、植物について噛み砕いて、わかりやすく説明してくださりとてもお世話になりました。10 年お世話になった後退会され、その後訃報の知らせが入りました。

また　病気で亡くなられた元会員の井上さんも当会員の中では数少ない宮島町民の会員で、宮島の文化、情報などいろいろ教えていただきました。今年また、15 年一緒にやってきた仲間の訃報を受けましたが、今でもその事実を受け入れないでいます。

色んな方々との出会いで思いがけない世界が広がり、私の財産になったような気がします。これからも仲間の方々との出会いを大切に、活動を続けたいと思います。

「15 年の中の変化」

平田　広三郎

会に参加しようとした目的は、宮島のゴミ拾いや少々の土木工事（職業は元々こちらが専門）を手伝うことでした。確かに当初はそれなりに需要（？）がありましたが、やがて　会の本旨である生物調査や観察会などが主になってきました。そうなるとこの方面に素養のない私にとって悩ましいことだったのですが、博打尾や磐座（いわくら）など古くからの宮島の伝承があって、宮島は宗教民俗に関わる島だと気付かされ、俄然興味がそちらに向いていきました。

宮島は清盛以降の歴史が賑わっていますが、これは文献中心の歴史学（現在は文献史学と言われることが多い。）で語られることが多いからです。　（　以下次ページ　）

清盛以前の宗教を含めた歴史となると、資料が水没や火災などで消失しており、宗教民俗学、考古学、神道考古学（神社関係）や建築史学などの成果からの推測や遺跡・遺物の調査以外にないのです。ここまで分かってきてようやく自分自身が納得できるようになりました。これが「みせん」への投稿につながり、やがて「みせん」の編集に直接関わるようになったきっかけなのです。次は如何に「みせん」の編集を引き継いで貰えるかが試されています。

「獺祭」雑感

佛崎　勝弘

皆さんは「獺」という漢字が読めますか？この漢字が読めた人は、「漢字検定準一級」の力があります。

そう、これは「カワウソ」と読みます。

日本では、1979 年高知県須崎市の新庄川で確認されて以来、目撃情報のみで、今では「絶滅種」になっているイタチ科のカワウソのことです。

それでは「獺祭」は何と読むでしょうか？素直に訓読みすれば「カワウソマツリ」となるのですが、実は違います。「ダッサイ」と読みます。「ださい」ではなく「ダッサイ」です。

この意味はもともと、カワウソが獲物を川岸に並べてお祭りをするということから、作家などが机の周りに必要な資料を散らかして、執筆する様を表すようになりました。しかし今では多くの人は、「獺祭」の本来の意味よりも、お酒の銘柄として知るようになっています。先日オバマ大統領が来日した際、安倍首相がプレゼントしたのがこのお酒です。

私は先日、その「獺祭」を造っている岩国の旭酒造の酒蔵で行われたパーティーに参加する機会を得ました。山の中の酒蔵には、全国から多くの＜獺祭ファン＞が集まってきていました。東京から来た落語家の寄席を楽しんだ後、全ての純米大吟醸の「獺祭」を味わうことができるのです。「獺祭」にも米（山田錦）の精米時の磨きによって各種ランクがあり、当日はその全てを満喫できるよう各々一升瓶が置かれていました。磨き 5 割から、4 割 5 分、3 割 9 分、2 割 3 分と飲み進めます。さすが 2 割 3 分となると、香りはほんのりフルーティーで少し甘みも感じますが、すっきりした味わいです。適度なほろ酔い気分となり、同席した福岡からのお客さんと「来年もまた飲みに来ましょうね」と盛り上がり、パーティーは終了です。

皆さんもボランティアの合間に酒蔵を訪ねてみてはいかがですか？楽しいですよ！関心のある人は、一度　旭酒造のホームページをのぞいてみてください。

（http://asahisyuzou.ne.jp/）

［15 年の PV 活動を振り返って］

松尾　健司

PV の活動は自分のためではなく、国立公園の保護と利用等に尽くすことであることを、常日頃より心にとめて活動してきましたが、振り返ると、私自身にとりかけがえのない多くが得られる活動でもありました。

20 代半ばの独身ブルーワーカーの私が PV の登録を希望するために申込んだ宛先は「環境庁自然保護局山陽四国地区国立公園・野生生物事務所 広島管理官事務所」だったと記憶しています。それから十余年、レンジャーの方々への連絡先の名称も変わりましたが、私も仕事を何回も変わり、結婚して子どもも生まれる等、とてもめまぐるしく環境が変わり続けました。ただ、何か PV 活動に参加している時だけは、まるで地元にかえって何となく心も落ち着いて動けるよう感じていました。それは PV の諸先輩やレンジャーをはじめとする環境省の皆様等の人柄と、宮島の長い時間培われてきた自然や歴史・文化のもたらす「特別な空間」のおかげだと心より感謝しています。

この度、不惑を目前に感謝状をいただきました。まだまだ若輩者ですが、今後は、瀬戸内海国立公園と関係する皆様にとり、もう少し私自身が頼りになれるような活動をめざしていきます。引き続きよろしくお願いいたします。

＜あっという間の 15 年＞

村上　光春

この度は 15 年表彰を頂き有難うございます。

あっという間のすばらしい 15 年間でした。この間直接ご指導を頂いた広島事務所の歴代 11 名の自然保護官、2 名のアクティブ・レンジャーの方々、そして何かとご配慮いただいた環境省の方々へ厚くお礼申し上げます。

この 15 年間を振り返ってみますと、その時々の時勢に応じて新たな活動を取り入れ、活動の巾を広げてきました。そして活動の内容も少しずつ変化してきたように感じられます。

これらの活動の中でとくに印象に残るものとして、会発足当初の自然豊かな大久野島や三段峡での子供環境教育(JPR)の支援。つづいて、大型台風による包ヶ浦公園の倒木被害や白糸川土石流被害の復旧作業への協力。入浜池の汽水化復活整備とその周辺の自然度定点調査。宮島海岸漂着ゴミ清掃(クリーン大作戦)・・などがあげられます。

そして今は、ラムサール条約登録湿地のミヤジマトンボ生息地保全活動への協力です。とくにこの 1, 2 年で顕著になったイノシシによる獣害は超難題です。

・・・さて、つぎの 15 年はどんな時勢で、どんな活動が加わるのでしょうか。

＜曽倉哲子（ソクラテッシー）の弁明＞

柳瀬　佳史

「みせん 54 号(H25 年 12 月発行)」で「清掃七つ道具男」を拝命した。七つ道具の一部を紹介すれば、①台風 14 号(H17 年)の土石流用手製組立スコップ、②鷹ノ巣高砲台石段清掃用手製竹箒・手鍬、③鷹ノ巣高砲台からの入浜への下山ルート用腰鉈・弦長柄鋸、④小なきり・包ヶ浦用鉄熊手 etc

ここで、15 年表彰受賞コメント・カンペ(カンニングペーパー？)七品公開。①登録身分証連続 8 枚→村上会長 Q：この美男子誰、②H14 年の登録名簿→新人 13 名中現在 3 名　がんばってネ、③H15 年の中国新聞紙の切り抜き→8 月安井氏(当時当会会員)西穂高で無念死、④H13 年の宮島町一万分の一地図領収書、⑤H18 年鷹ノ巣配電線路撤去工事残材位置の上記地図へのプロット記録、某社会長宛撤去依頼毛筆文、結果の 2t 車 2 台満載写真、⑥初回の鷹ノ巣高砲台清掃時使用の昇り鎌・折り畳み鋸→刃ボロボロ、⑦ミス・テキサス S 嬢ペン自筆の礼状写真付テキサス州花ブルーボンネット種袋→無念也無発芽。彼女仁王門でのダウン時、私が高校教師の彼氏へロープウエー・ルート説明中に“Oh 、no！A quarter & a half ？”(15 分と 30 分の意)とすっくと立ち上がり、独り下山行方不明。彼氏へのボクの宮島絵葉書付詫び状を見た彼女すまぬと思ったのですかネ。その他　大聖院のオアシスティシュ(下記参照)、同じく世界遺産記念 535 個限定バッジは汎用の為略

やなせたかし亡き今、自称アンパンマン・やなせヨッシー 80GG(80 歳のジジー)は、岩船山頂目指し、駆け足　登　頂 dash！脱酒！と行きますか。

【表彰　15 年】

六重部　篤志

「気楽なつもりで」「先々のために」「ちょっとだけ」の気持ちで片方の足を突っ込んだつもりが、いつも気がついた時には…、「片方の足どころか全身浸かっている」、もう一期、もう一期、あと一期だけと続けているうちに 15 年が経っていました。パークボランティアとして宮島の自然と環境を守る活動に、自分自身この 15 年間にどのように貢献できたのか、ただただ長かっただけのような気もしてなりません。

会員の皆さんの足手まといにならないよう、もう一期、もう一期と続けていければと思います。立派な賞状をありがとうございました。

（　まとめ　平田　広三郎　）

平成 27 年「環境の日」広島大会

日　時：6 月 7 日(日)10：00～16：00
場　所：広島県庁前広場
主催者：「環境の日」ひろしま大会実行委員会
参加者　末原　松尾　村上
　環境省　大高下 AR

今年も、例年通り環境省広島事務所のブースの一角を借りて、「ＰＶの会」の紹介パネル（5 枚）を展示しました。

当日は、他の主体が開催する自然環境イベントと重複したためか、来場者が昨年より若干少ないように感じましたが、それでも環境クイズラリーやステージイベントなどでおおいに賑わいました。

また大高下さんの鹿の「塗り絵」(会員野呂田さんが提唱中)も人気があったようです。　　（　文　村上　光春　）

宮島海岸の清掃作業

日　時：6 月 13 日（土）9：00～14：00
天　候：晴れ
場　所：宮島南西部海岸
参加者：岩崎　大西　小方(嗣)　小川　川崎　北野　黒木　小林ペア　小林(寛)　佐藤(佐)　渋谷　末原　兎谷　中道　野呂田　平田(攻)　平野　松田　三次　村上　山本(昌)　横路　呼坂　麻生　猪谷　前田　増田　森　山本(章)
環境省　関自然保護官　大高下 AR

ミヤジマトンボ保護管理活動の一環として、ラムサール条約に登録されているミヤジマトンボ生息地周辺の清掃作業を行いました。前回 4 月の活動は、トンボ生息地と海とをつないでいる水路の復旧作業で、「力仕事」でした。

今回は、トンボ生息地周りの砂浜海岸に漂着している包装プラやプラボトルなどの、比較的小さな生活ゴミの収集を中心に実施しました。「数は力なり」の作業です。

その「数の力」を遺憾なく発揮し、短時間でしたが 65kg のゴミを収集しました。

生物多様性に繋がる生息環境（生態系）と貴重な自然海岸の景観を少しでもとり戻すことができたと思います。

ゴミの収集は、トンボが生息している湿地を除外して、その周りの砂浜海岸を対象としたため、生息湿地にはそのままゴミが

得意なゴミ収集作業後の集合写真

残ることとなりました。理由はどうあれ、「画龍点睛を欠く」ことになったのは少し残念ですが・・。

一方で新聞報道の通り、トンボの生育に必要なヒトモトススキの大半がイノシシに踏み荒らされているのを目のあたりにしました。

飛翔したり、枯葉の先端に留まったりして、縄張りをしっかりパトロールしているトンボを見ながら、水路、ゴミ、イノシシ・・に限らず、トンボ保護の課題が沢山あることに思いを巡らしました。

なお、本作業はミヤジマトンボ保護管理連絡協議会の同意を得て、また、環境省自然保護官指導のもとで実施しました。

（ 文　村上 光春　写真　川崎 昭壽 ）

入浜池定点観察①および維持管理作業

日　時：6 月 20 日（土）9：00～12：00
天　候：曇り
参加者　大西　小方(嗣)小川　恩田　小林ペア　佐藤(佐)　末原　中道　平田(広)　檜和田　松田　村上　柳瀬　吉崎　六重部　麻生　森
【環境整備】　末原　義秋

水路のイノシシに壊された土のうの積み直しと海浜の水路を掘り直し、滞留していた水を海に流れるようにしました。海浜清掃では 80kg のゴミを収集しました。

【植物】　六重部　篤志

今回は入浜池の周囲を時計回りに観察。ハマニンドウ(県内には宮島、倉橋島、横島のみに生息)は今が満開。

（　以下次ページ　）

ホウロクイチゴ(宮島には多い、蒲刈島、倉橋島にも生息しているが個体数は少ない)は今が食べ頃、ヤマモモは赤紅色に色づき始めであと一週間後が食べ頃か？　これまで鹿が食べなかったマンリョウ、ヨモギ、ナカバヤブマオ、ヒメジョオンが食べられているが、鹿の食性が変わったとは思えないので、イノシシの仕業だろうか！鹿の保護施設内にイノシシが入っている形跡(掘り返し)がある。観察当初に比べると随分水位が低下し、乾燥した部分のヒトモトススキが枯死しているように思う。周辺の松枯れが進んでいる。一方ハマゴウは浜を覆い尽くす勢いである。

【野鳥】　大西　順子

6 月中旬は、子育て後期に当たる。この辺りで繁殖ができた野鳥の一部を確認できた。

セグロセキレイが親子で飛んで来て枝にとまり、雛に餌を渡していた。ホオジロの幼鳥が池のそばの草むらで餌を啄み、アオサギの幼鳥は目立つ枝の上で当分の間留まっていた。

寒い時期から子育てを始めるミサゴだけれど、巣に座っている 1 羽と少し離れた枝に止まっている 1 羽を確認できた。巣の中にいたのは巣立ち間近の雛だったのではないだろうか。頭上では、ミサゴが 2 羽で飛び交う姿を何度も見た。親子なのだろうか？兄弟姉妹なのだろうか？想像が膨らんだ。

入浜・背後の上空を飛翔するミサゴ

珍しいところでは、ゴイサギの幼鳥（別名ホシゴイ）が、池の傍から飛び去るのが確認されたが、近くで繁殖したのであろうか？マガモのペアも池で確認された。この時期のマガモは珍しい。シジュウカラはまだ子育て中らしくて、餌を銜えて運んでいた。どうも、電柱の横穴に巣を構えているようだった。ホトトギスとキビタキについては、まだまだ盛んにその囀りが響いていた。確認種は 20 種だった。(大西　注：ゴイサギは、幼鳥時の名前・ホシゴイと言われる羽の模様の期間が長いのが特徴です。成鳥の青い羽色になるまでには、2~3 年かかると言う本もあります。)

【水質】　小川　加代

この日は、池の水質調査を終えてから、水路の土のうを撤去したので、池全体の水位が高めである。前日も降雨があったためか、F 点の塩分濃度は低い。池周辺の直径 10ｃｍ前後以上のカンコノキの根元がイノシシにより掘り返され、根を食べた痕跡があった。

掘り返されたカンコノキの根元

COD は B 地点(道路側)で 5 ㎎／ℓ未満、C´地点(山側)で 5 ㎎／ℓ、F 地点(水路前)で 10 ㎎／ℓ。塩分濃度は B で 0.04%、C´で 0、F で 0.04%。水位は B で＋5 ㎝、C´水流あり、F で＋2 ㎝。水温は B で 20.8℃、C´で 15.7℃、F で 22.9℃。

【トンボ】　松田　賢

季節が進み 6 月は、成虫越冬する種(ホソミオツネントンボ)、春ごろに羽化する 1 年 1 世代の種(クロスジギンヤンマ、シオヤトンボ、ハラビロトンボ)、春から秋ごろにかけて 1～数世代みられる種(アオモンイトトンボ、ムスジイトトンボ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ)とさまざまなタイプが出揃い、10 種を数えた。

(よく似た 3 種：左からシオカラトンボ、シオヤトンボ、オオシオカラトンボのオス)

自主研修会「救急救命講習会」

日　時：7月4日 9：00～12：00
場　所：宮島市民センター
参加者 足立 岩崎 大西 小方ペア 小川
恩田 金山 北野 黒木 小林(昴) 小林(寛)
佐藤(佐) 佐藤(庸) 末原 田中 兎谷 野呂田
平田(広) 檜和田 佛崎 舛田 村上 柳瀬 山崎 横路
吉崎 呼坂 猪谷 大林 前田 増田 森
　環境省　武石自然保護官　大高下AR
　宮島消防署　5名

　最初に今回の講習会で印象に残ったことを二つ挙げます。一つは救命方法の絶え間ない研究により、方法が常に進化していることを認識させられたこと。二つ目はある会員が言っていたように、今までは確認や呼吸の有無などの順番のセリフを憶えるのが精一杯だったが、今回はスムースにやれたことです。2・3年に1回の成果が出てきたようです。

① 消防署の説明　(9：00～10：00)

・口移し人口呼吸はやめている。心停止でも脳に酸素が若干残っているので、10秒以内で呼吸確認、**すぐ胸骨圧迫(心臓マッサージ)でよい**。ただし、廿日市消防署では口移しや気道確保は行っている。

・幼児に対しては片手での心臓マッサージも可。乳児は中指・薬指の二本で。

・心臓マッサージは5㎝以上沈める。

・電気ショック(AED使用)　心臓が動いていないときは使えない(このため心臓マッサージで心臓を震えさせる)。心臓が震えている時使える。正常の心臓ではAEDは反応しない。従って心臓が動いたら心臓マッサージはやめる。AEDは2分間に1回、その間は心臓マッサージを。心臓が動いても呼吸をしていない時は気道確保を。

② 消防署の実演

・AEDの種類・取扱い説明　蓋を開けると自動的に電源が入る機種とボタンを押して電源を入れる機種がある。

・口移し人工呼吸、心臓マッサージ実演(マッサージ30回、口移し2回)

・心臓マッサージは一人では二分が限界

③ 会員全員の実習（10：00～11：15）

3人1組で
一人　呼吸確認、指示、心臓マッサージ
一人　119番通報
一人　AED確保・操作

会員の実習

④「改訂4版」テキストの説明(～12：00)

・心臓ペースメーカーを付けている人(皮膚表面が盛り上がっているのでわかる)へのAED対応。心臓ペースメーカーを避けて電極パッド貼り付け、電流の流れを変える。

・安静体位(横向き)を憶えておく

・止血は圧迫止血。絶対に素手で扱わない。

・骨折　上下2箇所の固定

・首を痛めている　絶対首を動かさない

・溺れている人は助けに行かない　棒とかを差し出す。

・119番との電話対応　口頭指導を受ける。

・山岳事故　携帯電話は逆探知ができないので、電源を入れっぱなしにしておく。

以上ですが、**心臓マッサージは**「しないよりしたほうがよい。」なのです。

（　写真・文　平田　広三郎　）

入浜池定点観察②および維持管理作業

日　時：7月25日(土)　9：00～12：00
天　候：晴れ
参加者　大西 小方(嗣) 小川 川崎 黒木
小林(昴) 佐藤(佐) 渋谷 末原 中道 錦織
平田(広) 松田 村上 柳瀬 山崎 横路 麻生
大林 前田 増田 森
【環境整備】　末原　義秋

水路は水が順調に流れており、滞ったゴミを除去する程度であった。大方の清掃担当会員は海浜のゴミの収集を行った。

（ 以下次ページ ）

【水質】　小川　加代

前日は晴れであった。水路は 6 月 20 日の整備状態が比較的よく保たれていたようである。6 月調査と比較すると、水位は B 点で 3 ㎝低くなっている。また水温は B, F 地点で 10℃前後高いが、湧水の C´ 地点では 3.5℃高くなっている。

COD は B 地点(道路側)で 5 ㎎/ℓ、C´ 地点(山側)で 5 ㎎/ℓ、F 地点(水路前)で 7(＜10)㎎/ℓ。塩分濃度は B で 0.04%、C´ で 0、F で 0.34%。水位は B で＋2 ㎝、C´ で水あり(わずかに湧水が流れ出ている様子)、F で水なし。水温は B で 33℃、C´ で 19.2℃、F で 30.4℃。

【野鳥】　大西　順子

なんと、ミサゴの巣では、巣立ち間近の雛が 2 羽いました。子育てが随分遅れたようです。何かあったの？とりあえず成功できて、良かった。巣立ち後の幼鳥にも出会いました。アオサギ(1)、シジュウカラ(1)、カワラヒワ(4)です。( )内の数字は幼鳥の羽数。その他確認種　トビ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ツバメ、アオゲラ、キビタキ、コゲラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ　計 19 種

【植物】表：山崎 美和　写真：増田 武彦

磯の木とその実

種　名	蕾	花	実	種　名	蕾	花	実	種　名	蕾	花	実
アカメガシワ（メス）			○	ダンドボロギク	○			ベニバナボロギク		○	
アメリカネナシカズラ		○		テイカカズラ			○	マンリョウ		○	
イソノキ			○	ナンゴクウラシマソウ			○	ミミズバイ		○	○
フユガキ			○	ネジキ			○	ミヤマガマズミ			○
カンコノキ		○		ハスノハカズラ			○	ヤブツバキ			○
クマノミズキ			○	ハマゴウ		○		リョウブ		○	
サカキカズラ			○	ハンゲショウ		○		シロダモ	○		○
ジャケツイバラ			○	ヒサカキ			○	オオキンケイギク（特定外来種）		○	
タケニグサ			○	ヒトモトススキ			○				
タラ		○		ヒメジョオン		○					

【トンボ】　松田　賢

池の周りで多数が活発な活動（なわばり、交尾など）を見せていたのは、アオモンイトトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボの 3 種。これらは入浜池で秋まで連続的に見られる優占的な種である。このほかウスバキトンボ、リスアカネがわずかに見られたものの、春のトンボは姿を消し、合計 5 種とこの時期としては少ない。リスアカネは早くも色づいていた。

アオモンイトトンボの交尾

嚴島神社前海浜清掃

日　時：7 月 30 日(木)13：00～15：30
天　候：晴れ
参加者　岩崎　恩田　川崎　小林(勗)　坂本　佐藤(佐)　佐藤(庸)　末原　田中　中道　平田(広)　檜和田　三次　柳瀬　山崎　山本(昌)　吉崎　大林　前田　増田　森

作業は、優に 35℃を超えるかと思える暑さの中、例年より遥かに多いという三笠浜を覆うアオサの除去でした。成果の方は全体からみると、管絃船が通る部分だけでしたが、やりがいのある充実した一日でした。

（　以下次ページ　）

観光客の皆さんは、管絃祭準備で最も盛り上がった嚴島神社を目撃されたことと思います。　（ 文　前田　忠瑛 ）

平成 27 年度

「自然公園クリーンデー清掃活動」

日　時：8 月 2 日(日)　9：00～12：00
場　所：宮島町内
主　催：環境省・廿日市市
参加者　恩田 五石 小林(寛) 小林(勗)
佐渡 末原 兎谷 平田(広) 村上 柳瀬
横路　森
環境省　加藤所長 関・武石自然保護官
NPO 法人「EPO ちゅうごく」1 名
廿日市市および宮島支所職員
宮島を美しくする会

連日 35℃超える猛暑が続いていますが、当日も暑い最中での作業でした。参加団体は例年変わりませんが、参加者の数は少なくなってきているようです。作業は実質 6 ルートを 5 班に分け、1 班 5~6 人で実施されたが、私が所属した包ヶ浦ルートでは海浜の清掃まで手が届かずじまい、気がかりが残る。ともあれ熱中症になる人もなく無事終了。また来年！（ゴミ収集量 320Kg）

（ 文　平田　広三郎 ）

投稿　　俳　句

『　歯朶葎　』
とんばうの住処(すみか)覗う夏つばめ
室浜のリンゴ苛(さいな)む歯朶葎(むぐら)
断層を奔(はし)る木の根や夏の浜
黒木　隆信

「みせん」を綴ってみて！！

投稿　小方嗣彬

今号は「みせん第 61 号」となりました。「第 1 号」の発行が、平成 12 年 9 月 1 日で、小生は 2 期生ですから第 8 号から愛読させていただいております。しかし、第 7 号までも欲しくなって、コピーをさせていただき、第 30 号になった時に第 1 号から第 30 号までを糊付けし、製本しました。そして、この度、第 31 号から第 60 号まで を製本し、2 冊目が完成しました。ときどき、開いては過去の記事を振り返って読ませていただいております。

第 50 号まで編集担当された足立さん、その後を引き継がれた平田さん、川崎さんに感謝し、お礼申し上げます。そしてこれからも、皆さんの面白い投稿を楽しみにしておりますのでどうかよろしくお願いします。

お知らせ

62 号は編集者が変わります。
新たに編集者になられるのは、
前田　会員です。
原稿の送付は前田会員に！ご協力を！

◇　編　集　後　記　◇

今号は「パークボランティア感謝状」特集となり、会員には迷惑をおかけしたのではないかと危惧している。ただ 15 年の歴史と環境省との繋がりが感じられる今回の受賞を素直に喜んでいる会員もおられることも事実です。これからも受賞される会員が増えていくでしょうが、それこそが会が成長している証だと考えたい。　(平田広)

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省　中国四国地方
環境事務所　広島事務所
（〒７３０－００１２）
広島市中区八丁堀６番 30 号
広島合同庁舎３号館１階
TEL082-223-7450、FAX082-211-0455